

来週の「売り物記事」はこれ

2019年11月15日号

毎日新聞東京本社 編集編成局・販促宣伝部

映画製作「銚子電鉄を止めるな！」

夕刊特集ワイド 19日（火）

「電車屋なのに、自転車操業」。そう言うのはばかり、スナック菓子「まぜい棒」など自虐ネタを生かした商品開発やユニークな企画で経営危機に立ち向かう千葉県銚子市のローカル鉄道「銚子電鉄」が、今度は「B級」ならぬ「超C（銚子）級」映画の製作に乗り出します。タイトルはズバリ、「電車を止めるな！」。またしても切実な事情があるらしいのですが、竹本勝利社長が楽屋裏を語り尽くします。



急性内斜視 長時間スマホの子供に多発か

くらしナビ面 20日（水）



両目で物を見ると二重だが、片目では正常——。そんな人は、急性内斜視の恐れがあるから注意が必要です。急性内斜視は片方の瞳が内側にずれる病気で、これまでで少なかった子どもたちに多発しているとみられています。専門家も心配するその背景には、スマートフォンなどの長時間利用があるようです。

論点 GSOMIA 失効

オピニオン面 20日（水）

日本と韓国が防衛上の機密情報を交換するため2016年11月に結んだ軍事情報包括保護協定（GSOMIA、ジーソミア）が23日午前零時で失効する可能性が高まっています。日韓両国の関係悪化を背景に、韓国側が8月に通知したものです。失効すれば、北東アジアの安全保障環境に影響を及ぼす可能性が高いため、日米両政府は協定継続を求めています。3人の識者に問題点を伺います。



巻き貝と建築学の関係

科学面 21日（木）



海辺などでよく見かける生物の一つに巻き貝があります。その「すまい」である美しいらせん状の貝殻の様子は、古来建築デザインや美術作品などに生かされてきました。貝殻の構造を解き明かすことで、現代の建築技術にも通じる類似性も浮かんできます。また、生物学的には、体の成長に合わせてうまく殻を継ぎ足して大きくするなど、生きるための知恵が詰まっています。身近だけれどちょっと奥深い「巻き貝の世界」を紹介します。

介護保険の基礎～地域包括支援センターとは

くらしナビ面 22日（金）から

老いた親が病気やけがで倒れた後、すぐに考えなければならぬのが日常生活的な生活支援や介護をどうするかです。介護保険を利用したいと思った時に最初の相談窓口になるのは各市区町村にある「地域包括支援センター」ですが、何をされていて、どう活用したらいいか分からない人も多いのではないのでしょうか。センターについて基礎から説明します。



災害に強い家にする

くらしナビ面 23日（土）



この秋は、度重なる台風や大雨によって、各地で深刻な被害が出ました。家屋への浸水も多く、日常生活を取り戻すまで時間がかかるケースが相次いでいます。そこで、水害が予想される時に自宅を守る方法を防災の専門家などに聞きました。家庭にあるものを活用しながら浸水を防ぐ方法のほか、家の周囲の排水機能に支障が出ないよう普段の生活で気を配るポイントを紹介します。

ローマ法王来日

1面など 24日（日）から

フランシスコ・ローマ法王がタイ・バンコクに次いで23～26日に東京、長崎、広島を訪ねます。世界12億人のローマ・カトリック教会の信徒を束ねるローマ法王の来日は、1981年のヨハネ・パウロ2世以来、38年ぶり。「貧者の教会」を掲げ、核廃絶や格差、気候変動などの問題にも積極的に発言する法王が、日本でどんなメッセージを発するか注目されています。

過労死遺族の闘い

Sストーリー 24日（日）



17年前の2002年、今に通じる「働き方改革」をたった2人で訴え始めた夫婦がいました。新潟県職員だった長男（34）を最大月約128時間の残業の末、過労自殺で亡くした両親です。14年に過労死防止法が成立し、翌年には電通の高橋まつりさんが過労自殺するなど過労死への関心はかつてなく高まりました。「働く」とは何か――。2人の姿が問いかけます。

※ 都合によっては掲載日や内容を変更することがあります。